

vCloud Director 10.0 for Service Providers リリースノート

vCloud Director 10.0 for Service Providers | 2019 年 9 月 19 日 | ビルド 14638910 (インストール済みビルド 14636284)

このリリースノートの追加事項や更新事項を確認してください。

このドキュメントの内容

- [このリリースの新機能](#)
- [廃止および中止された機能](#)
- [Flex ユーザー インターフェイスの廃止](#)
- [以前のリリースからのアップグレード](#)
- [システム要件とインストール](#)
- [vCloud Director 10.0 HTML5 ユーザー インターフェイスで使用できない Flex ユーザー インターフェイスの機能](#)
- [既知の問題](#)

このリリースの新機能

このリリースの新機能および更新された機能については、VMware テクニカル ホワイト ペーパー『[What's New with VMware vCloud Director 10.0](#)』を参照してください。

廃止および中止された機能

販売終了およびサポート終了に関する警告

- SQL Server データベースはサポートされなくなりました。PostgreSQL データベースのみがサポートされています。

- Oracle Linux は、vCloud Director アプリケーションをインストールするホスト OS としてサポートされなくなりました。
- vCloud API バージョン 20 はサポートされなくなりました。
- vCloud API バージョン 27.0 は廃止され、vCloud Director 10.0 以降でサポートされなくなります。
- vCloud API バージョン 29.0 は廃止されました。
- Flex ベースのユーザーインターフェイスは廃止され、デフォルトで無効になっています。vCloud Director 10.0 が、Web コンソール (Flex ベースのユーザー インターフェイス) を含む vCloud Director の最終リリースになります。HTML5 ユーザー インターフェイスは、テナントとサービス プロバイダに対応している唯一のユーザー インターフェイスです。
- vCloud API バージョン 33.0 では、/api/sessions API ログイン エンドポイントが廃止されました。vCloud Director 10.0 では、サービス プロバイダおよびテナントが vCloud Director にアクセスするための vCloud Director OpenAPI ログイン エンドポイントが個別に導入されています。
- vCloud Director 10.0 では、監査イベントがデータベース内で無期限に保持されることはなくなりました。デフォルトでは 45 日間、最大で 60 日間、保持されます。vCloud Director 10.0 では、バージョン 10.0 より前の環境から収集された監査イベントをデータベース内に保持します。セル管理ツールの監査イベントのインポートを使用して、監査イベント情報を CSV 形式でエクスポートできます。
- 新しい OpenAPI のイベント API /cloudapi/1.0.0/auditTrail にともない、監査イベント /api/query?type=event のクエリ API は廃止されます。この新しい API は、設定可能な変数 com.vmware.vcloud.audittrail.history.days によって定義される期間内に発生した監査イベントのみを取得します。これは、デフォルトでは 45 日間、最大で 60 日間です。

今後のサポート終了のお知らせ

- vCloud API 33.0 (vCloud Director 10.0) に含まれている API は現在廃止のものが増加しているため、将来のリリースでは削除される予定です。「[vCloud API Programming Guide for Service Providers](#)」を参照してください。

Flex ユーザー インターフェイスの廃止

vCloud Director 10.0 では、vCloud Director Web コンソール (Flex ベースのユーザー インターフェイス) は廃止され、デフォルトで無効になっています。Web コンソールの URL では、サービス プロバイダおよびテナント向けの対応する HTML5 トップ ページにリダイレクトされます。root 認証情報を持つシステム管理者は、セル管理ツールを使用して Web コンソールを有効にできます。Web コンソールと Web コンソール URL からのリダイレクトを有効にする方法については、vCloud Director インス

ツール、構成、およびアップグレードガイドの「[vCloud Director Web Console の有効化](#)」を参照してください。

以前のリリースからのアップグレード

vCloud Director 10.0 へのアップグレード、アップグレードと移行のパスおよびワークフローの詳細については、「[vCloud Director のアップグレード](#)」を参照してください。

システム要件とインストール

互換性マトリックス

次の内容に関する情報については、[VMware 製品相互運用性マトリックス](#)を参照してください。

- 他の VMware プラットフォームとの vCloud Director の相互運用性
- サポート対象の vCloud Director データベース

サポート対象の vCloud Director サーバ オペレーティング システム

- CentOS 6
- CentOS 7
- Red Hat Enterprise Linux 6
- Red Hat Enterprise Linux 7

サポート対象の AMQP サーバ

vCloud Director は AMQP を使用して、拡張サービス、オブジェクト エクステンション、および通知で使用されるメッセージバスを提供します。vCloud Director のこのリリースでは、RabbitMQ バージョン 3.7、3.7.9 および 3.8.2 をサポートします。

詳細については、『vCloud Director インストール、構成およびアップグレードガイド』を参照してください。

履歴メトリック データを格納するためのサポート対象データベース

vCloud Director が仮想マシンのパフォーマンスおよびリソース消費量について収集するメトリックを格納するように vCloud Director のインストールを構成できます。履歴メトリックのデータは、

Cassandra データベースに格納されます。vCloud Director は Cassandra バージョン 3.x をサポートしています。

詳細については、『vCloud Director インストール、構成およびアップグレード ガイド』を参照してください。

ディスク容量の要件

各 vCloud Director サーバに、インストールとログ ファイル用として約 2,100 MB の空き容量が必要です。

メモリ要件

各 vCloud Director サーバに、6 GB 以上のメモリをプロビジョニングする必要があります。

CPU 要件

vCloud Director は、CPU バウンド アプリケーションです。該当する vSphere バージョンに合わせた CPU オーバーコミット ガイドラインを順守する必要があります。仮想化環境では、vCloud Director で使用可能なコアの数に関係なく、物理 CPU に対する vCPU の比率は、過剰なオーバーコミットが発生しない適切な数にする必要があります。

必須の Linux ソフトウェア パッケージ

各 vCloud Director サーバには、いくつかの共通 Linux ソフトウェア パッケージがインストールされている必要があります。これらのパッケージは、通常、オペレーティング システム ソフトウェアと一緒にデフォルトでインストールされます。欠落しているパッケージがあると、インストーラは診断メッセージを表示して失敗します。

| | | |
|-------------|-----------|-------------------|
| alsa-lib | libICE | module-init-tools |
| bash | libSM | net-tools |
| chkconfig | libstdc++ | pciutils |
| coreutils | libX11 | procps |
| findutils | libXau | redhat-lsb |
| glibc | libXdmcp | sed |
| grep | libXext | tar |
| initscripts | libXi | wget |
| krb5-libs | libXt | which |
| libgcc | libXtst | |

インストーラで必要とするパッケージに加えて、ネットワーク接続を構成したり、SSL 証明書を作成したりする手順では、Linux nslookup コマンドを使用する必要があります。これは、Linux bind-utils パッケージで入手できます。

サポート対象の LDAP サーバ

次の LDAP サービスから vCloud Director にユーザーとグループをインポートできます。

| プラットフォーム | LDAP サービス | 認証方式 |
|---------------------|------------------|-------------------------------|
| Windows Server 2008 | Active Directory | シンプル |
| Windows Server 2012 | Active Directory | シンプル、シンプル SSL、ケルベロス、ケルベロス SSL |
| Windows Server 2016 | Active Directory | シンプル、シンプル SSL |
| Windows 7 (2008 R2) | Active Directory | シンプル、シンプル SSL、ケルベロス、ケルベロス SSL |
| Linux | OpenLDAP | シンプル、シンプル SSL |

サポートされるセキュリティ プロトコルおよび暗号化スイート

vCloud Director では、クライアント接続が安全である必要があります。SSL バージョン 3 および TLS バージョン 1.0 にはセキュリティ上の重大な脆弱性があることがわかっており、クライアント接続を確立する時にサーバが提供するデフォルトのプロトコルセットには含まれていません。次のセキュリティ プロトコルがサポートされます。

- TLS バージョン 1.1
- TLS バージョン 1.2

サポートされる暗号化スイートは、次の通りです。

- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256
- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384
- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA

- TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA

備考: 5.5-update-3e より前のリリースの vCenter Server および 4.2 より前のバージョンの ovftool で相互運用するには、vCloud Director が TLS バージョン 1.0 をサポートする必要があります。セル管理ツールを使用すると、サポートされる SSL プロトコルや暗号化のセットを再構成することができます。vCloud Director インストール、構成、およびアップグレードガイドのセル管理ツール リファレンスを参照してください。

サポートされるブラウザ

vCloud Director は、次のブラウザの最新および以前のメジャー リリースと互換性があります。

- Google Chrome
- Mozilla Firefox
- Microsoft Edge
- Microsoft Internet Explorer 11

備考: 自己署名証明書を使用する vCloud Director 環境では、Microsoft Edge の使用はサポートされていません。Edge ではプラグインもサポートされないため、コンソール リダイレクトや OVF アップロードなどの機能は Edge では動作しません。

サポートされるゲスト OS と仮想ハードウェアのバージョン

vCloud Director では、各リソース プールをバックアップする ESXi ホストでサポートされる、すべてのゲスト OS と仮想ハードウェア バージョンがサポートされます。

vCloud Director WebMKS 2.1.1

vCloud Director WebMKS 2.1.1 コンソールでは、次のサポートが追加されています。

- Google Chrome と Windows 版 Mozilla Firefox の PrintScreen キー。
- Windows および macOS の Windows キー。Windows キーを押す操作をシミュレートするには、Windows OS で Ctrl+Windows を押すか、macOS で Ctrl+Command を押します。
- Google Chrome および Mozilla Firefox での自動キーボード レイアウト検出。

vCloud Director 10.0 HTML5 ユーザー インターフェイスで使用できない Flex ユーザー インターフェイスの機能

HTML5 テナント ポータルおよびサービス プロバイダ管理ポータルで使用できない機能の一部を以下に示します。

- カタログの所有者を変更できない (テナント ポータル)
- vApp および仮想マシンの OVF プロパティを編集できない (テナント ポータル)
- vApp のデプロイ後に vApp をパワーオンするオプションがない (テナント ポータル)
- vSphere から仮想マシンまたは vApp をインポートできない (テナント ポータル)
- ユーザー通知の設定を変更できない (テナント ポータル)
- vApp リース有効期限アラートの通知設定を変更できない (テナント ポータル)
- vSphere から vApp テンプレートをインポートできない (テナント ポータル)
- vApp 内で仮想マシンを作成するときに vApp ネットワークに接続できない (テナント ポータル)
- 有効期限が切れていないテンプレートと vApp テンプレートが区別されない (テナント ポータル)
- HTML5 ユーザー インターフェイスではディスク単位 IOPS を設定できない (プロバイダ ポータル)
- vApp のカスタム リース回数を設定できない (テナント ポータル)
- ロールをコピーできない (プロバイダ ポータル)
- vApp 詳細ページに外部 IP アドレスが表示されない (テナント ポータル)

既知の問題

- **New:** テナント ポータル ユーザー インターフェイスで、アフィニティルールまたは非アフィニティルールを作成するときに、必須チェックボックスを選択解除してもルールの構成に影響しない

テナント ポータル ユーザー インターフェイスでアフィニティルールまたは非アフィニティルールを作成するときに、**[必須]** チェックボックスを選択解除しても、ルールの構成には影響しません。アフィニティルールと非アフィニティルールは常に **[必須]** です。つまり、ルールに該当しない場合、ルールに追加された仮想マシンはパワーオンしません。

回避策: なし。

- **NEW:** 2 つの vCloud Director アプライアンス サイトを関連付けると、オブジェクトがサイト間で表示されない

サイトに組織、組織 VDC、vApp、仮想マシンなどのオブジェクトがある場合は、サイトの関連付けを作成したときに、サイト間でこれらのオブジェクトを表示できません。HTML 5 ユーザー インターフェイスに内部サーバエラーメッセージが表示されます。この問題は、vCloud Director アプライアンスの /etc/hosts ファイルの内容が正しくないため、マルチサイト ファンアウト通信中に発生します。

回避策：なし。

- **レガシー API ログイン エンドポイントへのプロバイダ アクセスを無効にすると、vCloud Usage Meter や vCloud Availability for vCloud Director など、システム管理者のログインを利用するすべての API 統合が機能を停止する**

vCloud Director 10.0 以降では、サービス プロバイダおよびテナントから vCloud Director へのアクセスに個別の vCloud Director OpenAPI ログイン エンドポイントを使用できます。サービス プロバイダからレガシー /api/sessions エンドポイントへのアクセスが無効になっている場合は、vCloud Usage Meter や vCloud Availability for vCloud Director など、vCloud Director と統合された製品が機能を停止します。これらの製品を引き続き動作させるには、パッチを適用する必要があります。

この問題は、システム管理者にのみ影響します。テナント ログインは影響を受けません。

回避策：セル管理ツールを使用して、サービス プロバイダからレガシー /api/sessions エンドポイントへのアクセスを再度有効にします。

- **VDC の予約保証値を変更すると、再起動しても、既存の仮想マシンが適切に更新されない**

システムのデフォルト ポリシーが設定された Flex 組織 VDC があり、この VDC 上のパワーオン状態の仮想マシンにデフォルトのサイジング ポリシーが設定されている場合に、VDC のリソース保証値を大きくすると、既存の仮想マシンのリソース予約は更新されず、非準拠とマークされることもありません。この問題は、レガシー VDC 割り当てモデルを Flex 割り当てモデルに変換したことで既存の仮想マシンが Flex 組織 VDC の新しいデフォルト ポリシーに準拠しなくなった場合にも発生します。

回避策：

1. vCloud Director ユーザー インターフェイスに非準拠の仮想マシンを表示するには、vCloud API を使用して、仮想マシンに対する明示的なコンプライアンス チェックを実行します。
2. ポリシーを再適用してリソース予約を再構成するには、vCloud Director テナント ポータルで、非準拠仮想マシンに対して **[仮想マシンを準拠させる]** をクリックします。

- **[新規の組織 VDC ネットワーク] ウィザードの [Edge 接続] ページに、一部の Edge Gateway が表示されないことがある**

経路指定された組織 VDC ネットワークを作成するときに、テナント ポータルのユーザー インターフェイスに接続先の Edge Gateway の一部が表示されないことがあります。

回避策：テナント ポータルのユーザー インターフェイスに接続先の Edge Gateway が表示されない場合は、vCloud Director Web コンソール (Flex ベースのユーザー インターフェイス) を使用します。

- **vCloud Director に、専用 vCenter Server インスタンス内の実行中の仮想マシン数と仮想マシンの総数、および CPU とメモリの統計情報が正しく表示されない**

専用 vCenter Server がバージョン 6.0 U3i 以前、6.5U2 以前、または 6.7U1 以前の場合は、vCloud Director に、vCenter Server インスタンス内の実行中の仮想マシン数、仮想マシンの総数、および CPU とメモリの統計情報に関する情報が正しく表示されません。vSphere 環境に仮想マシンが置かれている場合でも、テナント ポータルの専用 vCenter Server のタイトルと、サービス プロバイダ管理ポータルの専用 vCenter Server の情報に、実行中の仮想マシンと仮想マシンの総数が両方ともゼロと表示されます。

回避策: vCenter Server インスタンスをバージョン 6.0 U3j、6.5U3、6.7U2 以降にアップグレードします。

- **現在のプライマリセルが健全な場合、アプライアンス管理ユーザーインターフェイスを使用してスタンバイセルをプライマリに昇格させることができない**

プライマリノードが健全な場合、アプライアンス管理ユーザーインターフェイスの **[昇格]** ボタンは機能しません。

回避策: Replication Manager Tool スイートを使用して、プライマリとスタンバイのロールを切り替えます。詳細については、「[データベース高可用性クラスタ内のプライマリセルおよびスタンバイセルのロールの切り替え](#)」を参照してください。

- **仮想マシンのサイジングポリシーの更新がメモリ割り当てエラーで失敗する**

割り当てプール VDC を Flex 組織 VDC に変換すると、vCloud Director は変換前の割り当てプール VDC の最大ポリシー情報を保持します。割り当てプール VDC で定義されている予約よりも CPU またはメモリの予約が多く確保されている場合、「仮想マシンの予約、制限、または共有の設定が無効です」エラーで失敗します。

回避策: システム管理者としてログインし、新しいリソース予約保証を使用して新しい最大ポリシーを設定します。

- **NSX-T Edge Gateway の Edge Gateway グリッドに表示される使用済み NIC の数が正しくない**
NSX-T 組織 VDC Edge Gateway では、vCloud Director サービス プロバイダ管理ポータルの [Edge ゲートウェイ] ページに表示される使用済み NIC の数が正しくありません。この問題は、機能そのものには影響しません。

回避策: なし。

- **vCloud Director Service Provider Admin Portal で SAML の ID プロバイダを使用するようにシステムを構成できない**

vCloud Director Service Provider Admin Portal で SAML の ID プロバイダを使用するようにシステムを構成すると、vCloud Director Service Provider Admin Portal に再度ログインすることができません。

回避策: vCloud Director Web コンソールで、SAML の ID プロバイダを使用するようにシステムを構成します。

- **テナント H5 ユーザー インターフェイスで組織 VDC ネットワークを vApp に追加する場合、一部の組織 VDC ネットワークが表示されない**

テナント H5 ユーザー インターフェイスで vApp に追加する組織 VDC ネットワークを選択するときに、H5 ユーザー インターフェイスに完全なネットワーク リストが表示されません。この問題は、マルチクラスターでバックアップされた PVDC が使用されている場合に、共有されている組織 VDC ネットワークでのみ発生します。

回避策: vCloud Director Web コンソール (Flex ユーザー インターフェイス) を使用します。

- **vCloud Director でレガシーの自己署名証明書を使用している場合、SDDC プロキシにアクセスできない**

vCloud Director 9.7 へのアップグレード後、SDDC プロキシに接続すると、次のエラーメッセージが表示されて失敗することがあります: 検証エラー: num = 20: ローカルの発行者による証明書を取得できません。この問題は、vCloud Director 9.5 以前のセル管理ツールを使用して、自己署名証明書を生成した場合に発生します。

回避策: vCloud Director 9.7 にアップグレードしてから、自己署名証明書を再生成して更新します。

- **vCloud Director 9.7 (vCloud API v.32.0) へのアップグレード後、ブランディング OpenAPI 呼び出しを使用して追加したカスタム リンクが削除される**

vCloud API v.32.0 では、カスタム リンクに使用される UiBrandingLink というタイプは、タイプ UiBrandingMenuItem に置き換えられています。これらのタイプは、異なる要素があります。この変更は、後方互換性がありません。この結果、バージョン 31.0 以前の API 呼び出しは UiBranding オブジェクト内の customLinks の処理または設定を試行して失敗します。

回避策: API 呼び出しを新しいデータ タイプに更新します。

- **パワーオン状態にある仮想マシンのコンピューティング ポリシーを変更すると失敗することがある**

パワーオン状態にある仮想マシンのコンピューティング ポリシーを変更する際に、仮想マシングループまたは論理仮想マシングループが含まれるプロバイダ VDC コンピューティング ポリシーに新しいコンピューティング ポリシーが関連付けられていると、エラーが発生します。次

のエラーメッセージが表示されます。基盤システムのエラー：
com.vmware.vim.binding.vim.fault.VmHostAffinityRuleViolation。

回避策：仮想マシンをパワーオフしてから、操作をやり直してください。

- **Firefox で vCloud Director Service Provider Admin Portal を使用している場合に、テナント ネットワーク画面をロードできない**

Firefox で vCloud Director Service Provider Admin Portal を使用すると、組織仮想データセンターの **[ファイアウォールの管理]** 画面などのテナント ネットワーク画面の読み込みに失敗することがあります。この問題は、Firefox ブラウザでサードパーティの Cookie をブロックするように設定していると発生します。

回避策：Firefox ブラウザで、サードパーティの Cookie を許可するよう設定します。

- **vCloud Director 9.7 では、vRealize Orchestrator ワークフローの入力パラメータのリストのみがサポートされる**

vCloud Director 9.7 では、以下の vRealize Orchestrator ワークフローの入力パラメータがサポートされます。

- boolean
- sdkObject
- secureString
- number
- mimeAttachment
- properties
- date
- composite
- regex
- encryptedString
- array

回避策：なし

- **VMware vSphere Storage APIs Array Integration (VAAI) 対応 NFS アレイ上、または vSphere Virtual Volumes (VVols) 上に作成されている高速プロビジョニングされた仮想マシンを統合できない**

ネイティブ スナップショットが使用されている場合、高速プロビジョニングされた仮想マシンのインプレイス統合はサポートされません。VAAI 対応データストアおよび VVols では、ネイティブ スナップショットが常に使用されます。高速プロビジョニングされた仮想マシンがこれらのいずれかのストレージ コンテナにデプロイされている場合、その仮想マシンを統合することはできません。

回避策："VAAI 対応 NFS または VVols を使用する組織仮想データセンターで高速プロビジョニングを有効にしてはいけません。"VAAI または VVol のデータストアにスナップショットを持

つ仮想マシンを統合するには、その仮想マシンを別のストレージ コンテナに再配置します。

- **組織 VDC ネットワークのステータスが空白になる**

H5 テナント ポータルで、運用中の一部の古い組織 VDC ネットワークのステータスが空白になります。

回避策: 組織 VDC ネットワークのプロパティ (説明など) を変更して保存します。

- **組織 VDC ネットワークをテナント ポータルから削除できない**

VDC ネットワークを vApp に追加して、同じ vApp を仮想マシンに接続したとします。

この場合に、テナント ポータルで組織 VDC ネットワークを削除しようとするすると、エラーメッセージが表示され、削除を続行できなくなります。

このネットワークは使用中です。

回避策: 組織 VDC ネットワークを削除するには、次の手順を実行します。

1. vCloud Director Web コンソールで、[システム]> [組織] に移動して、組織名を選択します。

組織に関連付けられているすべての vApp を含むウィンドウが開きます。

2. 組織 VDC の vApp を選択して、[ネットワーク] タブに移動します。

3. 削除する組織 VDC ネットワークを右クリックして、**[削除]** を選択します。

4. 組織 VDC ネットワークを削除するには、**[適用]** をクリックします。

- **vCloud Director テナント ポータルで非アフィニティ ルールを作成すると、ユーザー インターフェイスに空の仮想マシン リストが表示される**

vCloud Director テナント ポータルで非アフィニティ ルールを作成しようとするすると、仮想マシンの選択リストが空であるため、ルールに追加する仮想マシンを選択できません。

回避策: 非アフィニティ ルールを作成するには、vCloud Director Web コンソールを使用します。

- **新しく作成した仮想マシンが組織 VDC のデフォルト ストレージ ポリシーにデプロイされる**

vCloud Director テナント ポータルで新しいスタンドアロン仮想マシンを作成するときに、ストレージ ポリシーを指定するオプションが表示されません。その結果、作成された仮想マシンは、組織 VDC のデフォルトのストレージ ポリシーを使用してデプロイされます。

回避策: 仮想マシンを作成した後に、生成された仮想マシンのプロパティに移動して、ストレージ ポリシーを変更します。